

東洋療法いわて

会報第 50 号

平成 30 年 5 月 1 日

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会

《写真コーナー》



第1回執行部会議(4月23日)



平成29年度総会(5月7日)



第1回生涯研修会(6月4日)



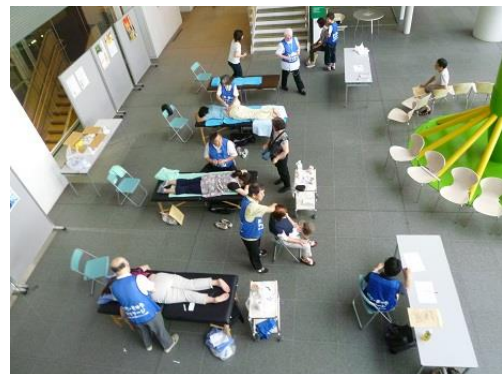
東鍼連岩手大会学術発表者(7月2日)



東鍼連岩手大会:太極拳講習(7月3日)



鍼灸マッサージ県民公開セミナー(8月6日)



鍼灸マッサージ県民公開セミナー(8月6日)



鍼灸マッサージ県民公開セミナー(8月6日)



健康保持のための研修会(9月3日)
西條 一止先生



東鍼連保険部研修会(11月26日)



東鍼連保険部研修会(11月26日)



東鍼連保険部研修会(11月26日)
山田 敏雄先生



第3回理事会(3月18日)

巻頭言



一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会
会長 佐々木 実

梅一輪 いちりんほどの 温かさ（服部嵐雪）

記録的大雪と寒さに見舞われた今冬も、やっと去ろうとしています。家々の周りや田んぼに積み重ねられた雪の山が大分小さくなりました。用水路を流れる水音も聞かれるようになりました。春の到来を喜ぶ童謡、「春の小川」や「春が来た」を思わず口ずさみたくなります。

さて、平成 29 年度の県師会を振り返りますと、何といても一番は 7 月 2 日、3 日に「ホテル紫苑」で行われた当会主管の第 40 回東鍼連学術大会並びに第 70 回代議員総会の成功ということになります。

北海道や新潟からの会員を含め 120 名余の参加となりました。

昨年度から重点事業として取り組んできた岩手県師会の三つの大きな事業。即ち、障害者国体岩手大会鍼灸マッサージボランティア、東鍼連岩手交流会、そして今年度の東鍼連岩手大会。いずれも会員の皆様の協力でご協力で成功裏に終わることができました。

また、今年度は公益目的支出計画も完了し、一般法人経営に新たな一步を踏み出した年でもありました。予測されるのは、今後の財政難です。会の法人の収入をアップし、潤いある会経営を行って行くためには、どのようにして行けばいいのかが今後の課題となります。

今年度、栄誉に浴くされた方々を紹介いたします。業界への多大なる貢献があったとして厚労大臣表彰に、当会前理事長の下佐征昭氏と前監事の及川清隆氏が、東鍼連に長年貢献されたことにより東鍼連会長賞には、二戸支部の古舘吉弘氏と奥州支部の千田節雄氏が選ばれました。誠におめでとうございます。

平成 23 年に発生した東日本大震災の仮設住宅入居者への鍼灸マッサージボランティアも 5 年目を迎え、釜石小川地区での月 2 回の施術は多くの皆さんに喜ばれております。今後も私たちは社会に必要とされる鍼灸マッサージ師、社会に貢献できる法人を目指して努力して参りましょう。

一年間の活動をまとめた会報ができました。回を重ね今回で 50 号となりました。発刊に当たって尽力くださった皆様に感謝申し上げます。

会報 50 号発行に当たり

二戸支部 山本 孝一

会報 50 号発行に当たり何か書いてほしいと依頼されましたが、何せ文章を書くのが苦手なもので、たいしたことは書けませんが宜しくお願いします。

私が本会に入会して早いもので 40 年経ちます。会報が発行されて 50 年になるということですが、その間、何年かは編集に携わらせていただきました。当時の役員、会員のご支援ご協力を頂きながらつつがなく過ごさせていただいたことを深く感謝申し上げます。

私があんまマッサージの免許を取得したのは昭和 34 年の 4 月でした。当時は高卒で受験できました（私たちの後輩は専攻科卒業後と変わりました）。私はあんまの免許取得後いくらかのバイトをし、昭和 36 年 4 月卒業後、病院勤務を経て昭和 52 年 4 月妻の実家である二戸で開業し、平成 8 年治療室を自宅に移し現在に至っています。

来年の 4 月には免許取得から 60 年になりますが、この資格を有効に使ってまいりました。少なくとも来年の 4 月までは現役でやっていければと思っております。

以上、短い文ではありますが、どうぞ、これからも長きにわたり会報が続くことを願っています。

平成 29 年度各種表彰者の紹介

7 月 2 日、3 日に行われた東鍼連第 70 回代議員総会並びに第 40 回学術大会岩手大会において、古舘吉弘さんと千田節雄さんの二名が東鍼連会長表彰を受賞されました。お二人は長年に亘り東鍼連大会出席をはじめ、多くの行事に参加協力したことが認められたものです。

また、11 月 5 日に行われた「あはき等法制定 70 周年記念式典」において、下佐征昭さんと及川清隆さんの二名が業界発展に寄与したとして厚生労働大臣表彰を受賞されました。昨年度の小澤信男さんに続いて当会からは 2 年連続の受賞です。

4 人の皆様、誠におめでとうございます。皆様の受賞は当会の誇りでもあります。健康に留意され、益々のご活躍を祈念いたします。

目次

写真コーナー

巻頭言

会報 50 号に当たり

平成 29 年度の各種表彰者の紹介

平成 29 年度活動報告

総務部

平成 29 年度庶務日誌

平成 29 年度定時総会報告

会長会務報告

全鍼代議員会等報告

東鍼連師会長会議報告

学術部報告

研修会報告

事業部報告

保険部報告

組織強化部報告

健康づくり委員会報告

東鍼連学術大会報告

東鍼連岩手大会に参加して

東鍼連大会に参加して

県民公開セミナー報告

県民公開セミナーに参加して

東鍼連宮城交流会に参加して

一関ハーフマラソン報告

東洋療法 in 京都

各支部報告

二戸

盛岡

奥州

一関

遠野

大船渡

臨床発表原稿

編集後記

奥付

会長 佐々木 実
二戸支部 山本 孝一

総務部長 古館 吉弘

会長 佐々木 実

学術部長 佐藤 明

事業部長 舘下 正則

保険部長 袖林 広正法

組織強化部長 佐藤 茂

委員長 古水 健吾

学術部長 佐藤 明

盛岡支部 清水 寛平

奥州支部 中村 龍哉

学術部長 佐藤 明

盛岡支部 松下 優子

遠野支部 佐々木 忠久

舘下 正則

会長 佐々木 実

支部長 古館 吉弘

支部長 佐藤 明

支部長 千田 節雄

支部長 舘下 正則

支部長 佐々木 きみ子

支部長 古水 健吾

盛岡支部 菊池 彩香

広報部長 松下 優子

平成 29 年度活動報告

総務部報告

総務部長 古館 吉弘

1 庶務日誌

- 4 月 1 日 盛岡医療福祉専門学校鍼灸学科入学式に佐々木会長出席（ホテル東日本）
- 同日 ニチイ学館と釜石小川地区での鍼灸マッサージ派遣事業に関する協定書を交わす
- 4 月 4 日 県民法人税、市民法人税納入
- 4 月 23 日 第 1 回監査会並びに第 1 回執行部会議開催（マッサージセンター）
- 5 月 7 日 第 1 回理事会並びに第 76 回定時総会開催 尚、同日昨年厚労大臣表彰を受けられた小澤信男氏、また全鍼師会会長表彰を受けられた千葉謙一氏を祝い、祝賀会を「盛岡リリオ会館」にて行う
- 5 月 28、29 日 全鍼代議員総会、政治連盟総会、協同組合総代会、東鍼連 29 年度第 3 回理事会に佐々木会長出席（東京）
- 6 月 6 日 佐々木会長と佐藤副会長が、無免許問題を話し合うべく、盛岡保健所と県庁医療政策室を訪問
- 6 月 8 日 公益目的支出計画報告を電子申請する
- 7 月 2、3 日 東鍼連岩手大会が繋温泉ホテル紫苑にて開催され、本県から 44 名が参加
- 7 月 9 日 視覚障害者関連団体連絡協議会に佐々木会長出席（岩手マッサージセンター）
- 7 月 30 日 第 2 回執行部会議開催（アイーナ）
- 8 月 10 日 盛岡保健所、一関保健所、中部保健所の 3 ヲ所に無免許業者と思われるリストを送り、取り締まりを要望
- 9 月 6 日 無免許業者説明のため、佐々木会長と井口庶務部長が盛岡市松園包括ケアセンターを訪問
- 9 月 24、25 日 東洋療法推進大会 in 京都に佐々木会長出席
- 10 月 2 日 公益目的支出計画の実施が完了し、その確認請求を行う
- 10 月 22 日 第 2 回理事会を電子的方法で行う
- 10 月 31 日 大船渡保健所に無免許者取り締まりの依頼を関係資料とともに送る
- 11 月 1 日 岩手鍼灸マッサージ保険協会の名簿を労災補償課に送る
- 11 月 5 日 あはき法制定 70 周年大会（東京）、下佐征昭前理事長、及川清隆前監事厚生労働大臣表彰受賞
- 11 月 11 日 協同組合研修会、佐々木実出席
- 11 月 12 日 全国都道府県師会会長会議（東京）、佐々木会長出席
- 11 月 19 日 東鍼連師会会長会議（仙台）、佐々木会長出席
- 11 月 25、26 日 東鍼連保険部長会議（盛岡）袖林広正法保険部長、佐々木実会長、佐藤明副会長出席

12月27日 一関と盛岡保健所に無免許広告資料を送り取り締まりを要請
平成30年

1月13日 第3回執行部会議開催（八幡平市「中山荘」）

2月4日 視覚障がい者団体連絡協議会に佐々木会長出席（マッサージセンター）

3月18日 第3回理事会開催（アイーナ）

2 平成29年度第76回定時総会報告

総務部長 古館 吉弘

風薫る5月。晴天の5月7日。平成29年度第76回定時総会が開催されました。最近、アイーナを会場に開催しておりましたが、今年は厚労大臣表彰を受けられた小澤信男さんと、全鍼師会会長表彰を受けられた千葉謙一さんをお祝いするために、場所を盛岡の大通りにある「リリオ会館」で開催しました。

9時40分頃から第1回理事会を開き10時10分頃に終了。休憩を挟み10時30分より総会に入りました。

以下は議事録です。

開会に先立ち、古館吉弘総務部長から会員数113名中44名の出席、委任状40名、欠席29名であり、定款第17条を満たしており定時総会が成立することが告げられ佐藤茂理事の開会のことば、昨年度の研修修了証書の授与、佐々木実会長のあいさつ、日盲連副会長・県視覚障がい者福祉協会理事長及川清隆氏により来賓あいさつ、井口力理事の祝電披露があった。

議事進行には、執行部一任を受け議長に古水健吾氏、議事録記録人に井口力氏、録署名人に佐々木忠久氏、藤井満哉氏が指名された。

第1号議案 平成28年度会長会務報告（佐々木実）

1. 第2回目の免許保有証が配布された（5年間有効）。県民セミナーやボランティア活動で使用していきたい。また、無免許者との区別をするため開業者は保健所の届け出済み証明書をぜひ取得してほしい。
2. 「あはき」は医業か？医業類似行為か？という話題が最近多く挙がっているが、「あはき法」に示してあるように「医業である」ということを厚労省にも訴え、法改正につなげるよう東鍼連が働きかけ、全鍼もその方向で動き出しつつある。（法律に明記することで無免許問題の取り締まりが強化される）。
3. 自然災害が多くなっているので全鍼が危機管理マニュアルを作った。被災地派遣ボランティアの交通費等を補助するためである。当会でも準備中で、来年にはできる予定である。
4. 平成学園が全国3か所で訴えている、いわゆる19条問題をめぐる裁判「マッサージ養成学校の規制撤廃」について「あはき等法19条を守る東北協議会」より協力の依頼がきている。

どのような協力ができるか？これまで執行部会議、理事会、各支部会議での意見を聴いてきたが、この場で意見を出してほしいと会長より提案された。

（高橋久喜）19条裁判は訴えられている厚労省を応援している東北協議会を支持

していくべきだ。それが総量規制や保険の不正請求の防止にもつながる。

（田沢博崇）マッサージの規制撤廃はぜったいにいけない。技術の低下にもつながる。

東北協議会への協力については賛成を表明するとした会長に一任するという事で一致した。

5. 会員増強を図るため鍼灸専門学校を対象に「学生会員へのすすめ」というパンフレットを作った（県師会情報の配信や治療院見学等の提供）。また、学生会員の申し合わせという事項を作り、若い会員が入りやすい環境を目指す。

第2号議案 平成28年度各部事業報告とその承認

総務部、庶務部、学術部、事業部、保健部、組織強化部、広報部、介護予防事業推進委員会、無免許対策委員会より順次報告があり、全会一致で承認された。

第3号議案 平成28年度収支決算報告並びに監査報告とその承認

財務部長より平成28年4月1日から平成29年3月31日までの報告があり、続いて監事から帳簿や領収書綴り、公益目的支出計画等にも誤りがないことを認めるとの報告があった。全会一致で承認された。

第4号議案 運営規定一部改正とその承認

県師会入会金免除が提案され（免許取得後2年以内の入会と、同業師会からの入会）、全会一致で承認された。

第5号議案 表彰規定一部改正とその承認

「師会長」を「支部長」と改めるとの提案があり、全会一致で承認された。

第6号議案 選挙管理委員の選任とその承認

新しく、村上直人、井出裕貴、伊勢澤祐介の3名を選出し承認された。

第7号議案 支部再編について

地域や人数のバランスを取る意味から一部再編したいとの会長の説明があり承認された。

第8号議案 平成29年度各部事業計画について報告

総務部、庶務部、学術部、事業部、保健部、組織強化部、広報部、介護予防事業推進委員会、無免許対策委員会から順次報告があった。

第9号議案 平成29年度予算について報告

財務部長より説明があった。

第10号議案 東鍼連岩手大会の準備状況について

佐藤茂理事より詳しい場所や、日程、進行などの情報の提示があった。

第11号議案 その他

- ・ 去年の国体のボランティアにおいて岩手県知事より感謝状が届いた。
- ・ 医道の日本に県師会の活動が掲載された。
- ・ 佐藤明学術部長より6月の研修会の参加募集の案内があった。

引き続き、佐藤明副会長が閉会のことばを述べ、すべて滞りなく終了した。

会長会務報告 全鍼代議員総会等報告

会長 佐々木 実

5月28日から29日にかけて東京のホテル「ルポール麹町」において、全鍼代議員総会、鍼灸マッサージ連盟総会、全鍼協同組合総代会、平成28年度第3回東鍼連理事会の会議に参加して参りました。順に報告いたします。

全鍼代議員総会

会議は冒頭から揉めました。即ち、「福岡県師会が代議員を出していないがなぜか？」という質問が出されたのです。

この件に関しては、誤解を恐れずに言わせてもらえれば、全鍼会長が福岡県師会長に対し、役員内メールで揶揄・批判することを書いた。それが当人に漏れ、こじれにこじれて福岡県師会が「全鍼には協力しない」という態度を取っているということ。メール、ツイッター、ブログ等色々ありますが、書き込みは慎重にしないとイケません。前車の覆るは後車の戒めなりです！

結局は、新会長・新執行部に関係修復を託すという形で会議に入りました。

平成28年度の事業と決算報告では、

（スポーツ委員会）全鍼、日鍼、鍼灸学会等で東京オリンピック・パラリンピックにおいて選手村ではきが診療に入れるように運動して行く。

Q（奈良）パラリンピックもあるので、理教連や日マ会等も入れてやって行って欲しい。

A（スポーツ委員会）多くの団体にこれから声をかけていこうと思っている。

Q（北海道）前回の選挙で選管は失態続きといえる。代議員会で選挙結果は発表しないと言いながら、何故その後の理事会では公表したのか？

A（選管）東北から公表して欲しいと質問状が出されていたので、理事会で確認したのだ。

（保険局）平成30年度から一部負担でかけられる保険制度がスタートする（いわゆる委任払い）。これには国保、後期高齢、協会健保が賛成し、健保連の一部の組合が反対しているだけとなった。これは政治の力、厚労省との長年に亘る交渉の結果である。

平成29年度の事業と予算については、

（財務）2千円の値上げに感謝する。会員が減っている中、北海道では一気に200人増えた。協力に感謝する。

Q（岩手）会費を値上げしたことにより、平成30年度からは年度初めに銀行から借りている2千万は借りの必要がなくなったのか？

A（財務）公益法人の性質上、残金を多く残す訳にはいかないから、無理である。

Q（岩手）値上げしたメリットがあるように、いくらかでも借入金を少なくして欲しい。半年借りると16万円もの利息が付いている。

それと、全鍼師会の会歌があると聞くが、あるならHPに載せたり、東洋療法推進大会で歌うなりして結束を高める手段として使うことを要望する。

A（財務）そのように努力する。

（広報局）月刊東洋療法の PDF 化での送信を考えている。どれほどの人が紙から変更してくれるか近いうちにアンケートを取りたい。

（保険局）11 月 11 日（土）に保険取扱い講習会を東京で行うことを企画している。参加して欲しい。

Q（山形）消費者庁が、「無資格者の施術はなるべく受けないように」と朝日新聞に載せているが、この記事をどう思うか？

A（法制局）消費者庁はよく出してくれたと思う。経産省などは「簡単なマッサージなどは資格がなくても出来る」としている。健康産業で医療費減を目指そうというのはおかしいと思う。消費者庁に無免許の実態を話して、これから力を借りて行こうと考えている。

平成 28 年度行事決算、平成 29 年度の事業計画と予算案は拍手で承認され、役員選挙へと移りました。前回の失態の反省が生かされ、立会人が 3 人置かれ、墨字の開票はマークシート式で機械が読み取るという方式に変わっていました。

ところが、点字の投票用紙が 2 枚足りないとか、投票方法説明が不十分とかで、フロアからは不満噴出。

何とか投票が終わって次の「地方提出議題」へ入ったのは会議時間残り 30 分というところでした。

- ・宮城県から提案された「あはきは医業であるということを全鍼として統一認識するために、ここで決をして欲しい」という件については、厚労省との定期協議や国会議員との会談等での本音と建て前の使い分けはあることを了承の上、決の結果、「医業である」との認識でまとまりました。
- ・山形県からは、「無免許問題は裁判を起こして 35 年判決を覆すべき」との意見があり、法制局は、「今、厚労省が我々に沿った形で動いてくれている時なので起こすべきではない」と明言。
- ・その他、多数の地方提出議案がありましたが、時間切れで、会長が簡単に答えるだけで審議とはならないまま会議は終了しました。

選挙結果の発表では、立候補者 24 名中、21 名が過半数を得ましたが、定数が 20 ですので、新福、金崎、石橋、古賀の四氏が落選。トップ当選は伊藤氏、次いで長嶺氏でした。また、監事選挙は定数内の立候補で、全員過半数の信任を受け当選となりました。

その後の理事会で、会長は大阪の伊藤久夫氏と決まりました。

鍼灸マッサージ連盟総会

29 日 9 時から 10 時 30 分まで行われました。厚生労働大臣や伊吹文明、衛藤晟一、二階俊博等々重鎮議員が挨拶に来られました。

会議の内容としては、

- ・日本にあはき免許者が 10 万人いるとみられるが（実働 6 万）、保有証取得者は 1 万人であること。
- ・過去 5 年間のあはきによる危害件数は 1 千件であり、その中の 300 件は重篤な

ものであった。そして、ほとんどが無免許者による施術であった。

- ・連盟会費を納入（強制ではない）してもらうため、月刊東洋療法 7 月号に振り込み用紙を入れて送る。協力して欲しい。なお、すでに振り込んでいる人でも、何口でも受け付けますとのこと。
- ・役員改選では、伊藤久夫氏が委員長に、副委員長に宇須氏が選任されました。

協同組合総代会

28 年度の事業収益はとんとんの状態との説明があり、その後、28 年度活動、決算報告と 29 年度事業計画、予算案は拍手で承認されました。

- ・協同組合の出資者を募る。一口 1 万円。
- ・岩手県から「視覚障害者のためのレセプト代筆事業を早く始めて欲しい」との要望が出され、執行部も了承。

役員改選の結果、理事長には堀氏が再任、副理事長に杉田久雄氏、専務理事に伊藤久夫氏。ちなみに、この 3 人には月 30 万円の給与が支払われるそうですが、「1 人減らせ」というフロアからの声に、「減らしはしないが、給与は 3 人で 2 人分しか支給しない」ということで決着。（へんな話ですが、フロアも長時間の会議疲れ…）

東鍼連第 3 回理事会

28 日の夜、宿泊ホテルの一室で 20 時 30 分から 22 時まで行いました。主に東鍼連岩手大会の準備状況報告と宮城交流会のこと、そして来年度の東鍼連宮城大会の説明でした。

- ・宮城交流会では、日時は 9 月 30 日～10 月 1 日。場所は鳴子温泉玉造荘。参加費 15,000 円。
- ・来年度の東鍼連宮城大会は、7 月 1 日（日）、2 日（月）。仙台駅前のビジネスホテル「ホテルサンプラザ」。（楽天生命パーク宮城の隣）
参加費 18,000 円。テーマ「明日の臨床に役立つ症例報告 & 実技発表－誰にでも出来る再現性のある症例 & 実技発表」
特別講演は、鹿島忠氏（柔整・あはき師）
- ・岩手からの提案の「東鍼連の会旗を作っては」という件は、今年は無理なので、来年の宮城大会から使えるようにとの話でまとまりました。
- ・白田東鍼連会長が健康上の都合から会長を辞任したいとの話があり、宮城の山田氏を代議員会の時に、次回会長として推すことに決まりました。

全ての会議が終わった後、都庁見学に行きました。正面に「2020 東京オリンピック・パラリンピック」と大きなポスターがエンブレム入りで貼られてありました。地方で暮らす者にはピンときませんが、あちらでは景気の起爆剤になっているようです。全鍼でも「オリンピックでの選手への施術を！」と声高々に謳っています。平日にもかかわらず観光客の渦。英語、韓国語、東南アジアと思われる言葉。圧倒されるばかり。負けるな東北！負けるな岩手！私たちは私たちの存在意義を主張していけばいいのだから！！

全国都道府県師会長会議報告

会長 佐々木 実

伊藤久夫新会長になって初めての全国師会長会議が、11月12日、東京四谷の貸し会議室で午前11時から午後4時30分まで行われ、出席して参りましたので簡単に報告させていただきます。

加盟する49師会中、福岡、大分、長崎の3県が欠席。役員では、往田副会長が欠席でした。議長はこれまでは参加師会長の中から選ばれていましたが、今回は伊藤全鍼会長が直々に務められ、進行がとても速やかで実りある会議だったと思います。伊藤会長になってから私が感じることは、これまでどことなく上から目線だった全鍼トップの視線が私たち一般会員のレベルまで下りて来て、話しやすくなったということです。人柄もあるのですが、伊藤会長は誰にでも気軽に声をかけられ（よく人の名前を覚えているのには感心です）、話の輪に入ってくれます。法律にも詳しく、全鍼の立場もはっきりと表明されます。全鍼にはこれまでと違った風が吹き出したと私は感じています。

さて、会議の主な議題は、1. これまでの事業報告、2. これからの事業計画、3. 各県提出議題、4. その他でした。その中から主なる事項を記します。

（総務）全鍼の今年度の入会者数は440名、退会者数は608名、現在会員数は8,831名と減少に歯止めがかかっていない。

（事業部）東洋療法推進大会 in 京都への協力に感謝する。決算は示してある通りとんとんであった。ただ、参加申込をHP上で行ったが、会員には突然のことであり、また、HP上の不備もあったりして迷惑をおかけした。来年は鹿児島で10月14日（日）、15日（月）の予定だが、今回の経験をいかして参加申し込みの方法を考えていきたい。

（広報局）月刊東洋療法を現在図書館、都道府県庁、保健所、包括支援センター、議連等に送っているが、送料もばかにならない。各図書館に送るのを止めただけでも100万円浮く。来年度から止めようかと思うが、意見をお聞きしたい。

* 話し合いの結果、国会図書館を除いては送らなくてもいいのではという意見が多かった。これを受け、来年度までに広報局が検討することとなった。

（岩手）健康づくり委員会が行った「鍼灸マッサージ師における介護予防調査」の結果が出ているのか？アンケートについては、各師会長にメールで「これを会員に配布し、解答をまとめて全鍼まで送って」という丸投げ状態だった。回答内容には1か月の患者数など個人情報も入っていたし、点字での解答については一言も触れられていなかった。これからはその点を考慮してアンケートを行って欲しい。

（健康づくり委員会）不備をお詫びする。まだはっきりとした集計は出ていないが、586件の解答があり、介護予防に興味があるという人は7割から8割程度あった。

（沖縄）リンパドレナージの研修も全鍼でやって欲しい。

（学術局）やる方向で検討したい。

（宮城）推進協ではき改正協議を行っていると思うが、内容を教えて欲しい。12条の2項から「等」を削除するべきだ。

*2 項の「等」とは療術師を組み入れたための措置

（会長、法制局）具体的なことはまだ発表出来ない。が、おっしゃる通りだと考えている。

（岩手）昨日の協同組合研修会では、点字の資料がまったくなかった。点訳するのが難しいのなら、前もってメールで資料を送るなどの気配りが欲しい。今日の資料も点字に出来なかった物はデータで送って欲しい。

（協同組合理事長、全鍼会長）まったくその通りで、今後気をつけ、要望に沿うようにしたい。

各県提出における岩手からの「中央業団体の一本化を望む」という件については、会長も「業界は一本化するべきだ。その一つとして、まず出来ることからということで研修を合併で行う話が出ている。とりわけ再来年の東洋療法推進大会を合同でという話も出ている」とのことでした。

また、県レベルで一本化している5団体（北海道、福岡、佐賀、富山、熊本）や一本化に失敗してしこりが残ってしまった愛知などから経験談が述べられました。

それによると、合併している県では、会員それぞれがばらばらに日鍼や全鍼に入っている、役員だけはどちらの会にも入っているなどでした。名前だけ一つになっても、中身がばらばらなのでは会としてまとまりがつかないのではという印象を私は持ちました。

沖縄からは、「19条裁判に対する全鍼の意見を尋ねたい」との質問が出され、伊藤会長は、「19条は視覚障害者の職種が広がっていない現状では守って行かなければならない」と言明されました。

それに加えて私の方から、「19条はマッサージ師の総量規制の役割も果たしており、恩恵に浴しているのは晴眼マッサージ師でもあることから、業界全体の問題である」との提言をさせていただきました。

また、沖縄から「特区でスパセラピスト養成施設を創ろう」という動きがある。県と話し合っているが、「外国人旅行者が増えているので必要だ」との一点張り。

これについては、「特区は法を越えるので、大変悩ましい問題。全国に広がる可能性もあるので、全鍼としても沖縄と連携を密にして対処していきたい」とのことでした。

最後に、「鍼灸師がマッサージみたいなことをしているがいいのか?」、「マッサージ師がてい鍼をしているがどうなのか?」、「柔整が柔整マッサージなどと称してマッサージをしているがどうなのか」などの意見が出され、情報交換がなされましたが、明確な線が引けないというのが現状です。

師会長会議後行われた鍼灸マッサージ師会連盟会議では、来年度から全鍼代議員を正式に連盟代議員としたいという案が出され、満場一致で承認されました。

それと、いつものことながら、連盟会員を増やしていただきたい。寄付やカンパ金をお願いしたいということで終了しました。

岩手県でも連盟会費（年1千円）振り込み用紙が私の所にあります。連絡くださればお送りしますので、一人でも多く連盟会員になってください。

以上で報告を終わります。

東鍼連師会長会議報告

会長 佐々木 実

11月19日、仙台の荒町市民会館において、平成29年度第2回理事会（各県師会長会議）が11時から3時まで行われました。出席者は、私の他に宮城の山田会長、秋田の高橋会長、福島平栗会長の代理で矢吹さん、草刈財務局長、笹沼事務局長の8人で、青森県と山形県（白田会長は急な風邪のため）は欠席でした。

1. 東鍼連岩手大会の反省

（秋田）場所も勝手知ったる所だし、内容料理共にとてもよかった。

（福島）とても良いおもてなしだったと思う。

（宮城）ホテルの設備、対応、料理がとてもよかった。来年あのようなおもてなしが出来るか、どうか不安である。

（岩手）・時間が押して休憩時間が取れなかった。

- ・太極拳は全盲の人たちには分かりにくいので、見える理事にはサポートするように打ち合わせていたがどうだったろうか？（各県特に支障はなかったとの回答）

- ・開会式で視福協会長を来賓席に着座させなかったチェックミス。

2. 代議員会における懸案事項の処理

あはき等法19条を守る東北協議会の要請からの協力については、岩手県師会に続いて秋田県師会も地元秋田支部に入ったとの連絡があった。宮城では個人対応としている。

熊本県地震災害ボランティアを募集したら、福島1名、宮城2名あった。全鍼の災害委員会に連絡して行く方向で進めたが、現地が大雨などに見舞われたため断念した。

3. 29年度事業中間報告

- ・宮城交流会が26名参加で（岩手から9名）9月30日～10月1日にかけて行われ盛況であった。

- ・10月28日～29日の北海道師会創立80周年記念大会に、山田東鍼連会長が出席した。北海道ではビデオ研修会が行われ、また、学生の臨床研究発表も行われていた。

4. 29年度の決算中間報告

岩手からの提案で、「今後の東鍼連の財務状況を会費値上げも含め考見直す」という件については、了承され、次回の理事会までに各県の意見をまとめて来ることとなった。

5. 各県活動状況

（福島）・再来年の東鍼連大会は、猪苗代湖湖畔の「リステル猪苗代」で行う予定である。日時はいつもの通り7月の第1日、月。詳しいことは来年の理事会で報告する。

- ・来年の東鍼連交流会はいわき市で10月20日（土）、21日（日）に行う。参加費1万5千円。

（岩手）東鍼連岩手大会、一関ハーフマラソンボランティア、釜石小川地区ボラ

ンティア、あはきの日記念事業として県民セミナーを行った。

(秋田) 全鍼から災害ボランティア派遣や県や関連団体と協定書を結ぶようにと言われているが、秋田では派遣する人材がいけない等の意見が出されている。

(宮城)・あはきの日記念事業として講演、テレビ番組の一コマに出ることが出来た(1分程度)。

- ・ただ講演を聴くだけの研修会では残らないので、参加型の研修会(グループワークや実技)を目指している。

- ・研修会で、おもてなしの心という概念から、裏千家の茶道の実践も行った。

6. 東鍼連宮城大会の進捗状況

来年7月1日(日)~2日(月)に仙台駅近くの「ホテル仙台サンプラザ」で行う。参加費は1万8千円。学術大会中心の大会とする。

7. 東鍼連会旗について

会旗が決まり、発注することになりました(濃紺の地に白抜きで東北の地図と五星のマーク。その下に「東鍼連鍼灸マッサージ師会連合会」の字。2万3千円也)。来年の東鍼連からは使われます。

8. 役員確認と会則改正案、災害対策規定案について

- ・役員は、会長山田(宮城)、副会長佐々木(岩手)・平栗(福島)、監事高橋(秋田)・白田(山形)、事務笹川(青森)・東鍼連の会則については、新しく設けられた学術委員会などを位置づけた事項が加えられ、来年の代議員総会で改正決議することとなりました。

- ・災害対策規定案が会長より提案され、討議した結果、異議なく承認されました。これにより、東北6県いずれかで自然災害等あった時には、東鍼連から必要に応じて人や金を出すことが出来るということになりました。

9. その他

特になし。

会議後、宮城の山田会長、秋田の高橋会長と私とで仙台駅内の喫茶店で、お茶を、もといビールを飲みながら情報交換し帰途につきました。

学術部報告

学術部長 佐藤 明

第1回生涯研修会報告

平成29年度第1回生涯研修会は、6月4日(日)、アイーナ団体活動室3において開催されました。9年目を迎えた生涯研修会も今回で通算42回目となりました。今回の参加者は、会員29名、付添い3名、一般鍼灸マッサージ師4名でした。

開会式では、今年度新しく入会された会員や、一般鍼灸マッサージ師の方の紹介を行い、歓迎の拍手でお迎えし和やかな雰囲気では研修会は始まりました。

講演の1題目は、「これからの介護事業と鍼灸マッサージ師の役割」というものでした。講師は、岩手県介護支援専門員協会会長・岩手県議会議員としてご活躍されている当会顧問の神崎浩之先生。

講演は、自己紹介から始まり、地域を巻き込んだ多方面にわたる活動の様子や奉仕活動について。そして、福祉介護関連事業に携わりながら、その現場経験から見たこと感じたことを基礎とし、福祉を原点にして議員活動にも取り組んでいるということをお話してくださいました。

今回、特に注目したことは、テーマである介護事業周辺情勢の現状と今後の動向、そこに鍼灸マッサージ師がどのように関わりを持つことが出来るかをお聞きしたいというのが最大の眼目であり、それについて十分踏まえたお話をいただきました。すなわち市町村では、介護予防事業について、来年度から一段と取り組みが強化されていく状況にあるため、いわゆる「風が吹きつつある」ということを力強くお話していただけたことは、今後の私たちの職域開拓にもつながることから、好機到来と受け止めたいと思いました。

続いて、講演の2題目は、菊池彩香先生による研究発表でした。7月2日に行われる、東鍼連岩手大会学術研究発表の予行練習を兼ねた、「脳梗塞による右片麻痺患者の施術目標をいかに立てるか」を発表していただきました。臨床体験例を通して感じたことや学んだこととお話しいただき、参加者全員で共有できたことはとても有意義なものとなりました。

昼食をはさみ、午後の部は実技を中心とした「太極拳の種類と発展」と題し、講師は、公益社団法人日本武術太極拳連盟、公認A級指導員・公認審判員、そして、太極拳4段の岡村勝子先生でした。これは、7月3日に東鍼連岩手大会に「講演と実技」の講師にお招きすることから、リハーサルを兼ねた研修でありました。

先生の動きを見ながら、動作を行おうと思うものの、始めはなかなかスムーズに体が動かない人が多かったため、見える人と見えない人がペアになり、ポーズを取る一連の動作、いわゆる武道の型を体で覚えるまでが大変だなと思いました。ほとんどの方が初めてということもありましたが、それでも皆真剣に取り組んでいました。

終わる頃には全員大汗をかいていて、一通りの型の流れを体験したことで太極拳についてより学びが深まったようでした。さらに、岡村先生から普段の姿勢の大切さや、腰の構え、立ち方、歩き方なども一人一人ご指導いただくなど、これだけでも勉強になりましたし、日頃の健康維持や近い将来の老年期に向けて、つまり転倒予防にもなるという点で、思わぬ収穫となった方も多かったのではないのでしょうか。そして、太極拳の型を覚えて、毎日体操の代わりに行うことで心身の活性化が期待できそうな気がしました。

今回の事前研修は、講師の岡村先生にとりましてもいい経験だったようであり、私たちにとっても、東鍼連岩手大会において率先して他県の仲間にサポートが出来るようにしたいとの目的もありましたので、それらを含めて大変貴重な経験になったと思います。

閉会式では、当会の小澤信男顧問に講評をいただいたほか、一般の有免許者の方に受講感想を述べてもらいました。

第2回生涯研修会報告（健康保持のための研修会報告）

9月3日（日）、恒例の三団体共催による学術研修会は、今年も「健康保持のための研修会」という名称で開催されました。会場は、県立盛岡視覚支援学校・視聴覚室、会員33名を含む約50名が参加しました。

今年の研修会の講師は、鍼灸マッサージ業界並びに業界人教育において、大変有名である筑波技術大学名誉教授、医学博士の西條一止先生でした。演題は「21世紀社会に期待される鍼灸・手技：自然鍼灸学」でした。

講演は、大学の講義そのものという感じがして、とても内容が濃く聞いている人を引き込む話術に魅力があり、先生の全身からはオーラさえ感じました。

その内容は、1. 自然鍼灸学とは、2. 刺鍼時の自律神経反応、3. 副交感神経、交感神経の反応の仕組み、4. 基本的刺鍼技術、5. 21世紀が求める、治療の科学的理論、6. 臨床からの鍼の治効六つのメカニズム、7. 治療の組み立て（設計図）理論、8. 身体の調節する力・治す力を高める、9. 鍼灸・手技治療の救世主：筋膜リリース、10. 仙腸関節機能異常に対する対策（西條法）というもので、先生からの資料も盛りだくさんでした。

さて、その中で、身体の調節する力・治す力を高める目的で、副交感神経機能を主体にするやり方という実技を全員で体験させていただきました。まず、被験者はリラックスして体の力を抜いて椅子に坐ります。施術者は、寸3-1番の鍼を経穴の外関穴に鍼管を使い切皮した状態で呼気時にその鍼管の頭をトントンと軽く叩くやり方を15回行うというものです。その際、押手はごく軽くするのがコツということでした。そして、この手技をする前後に、被験者に立位体前屈をしてもらうと指床間距離が明らかに改善した人が多く、この即効性を利用して、鍼の体験のない方に試すと効果絶大ということでした。

このように、随時実技を取りまぜた講演は、臨床に直結するものばかりで、とても興味深いものでした。長年教壇に立ち臨床指導をされたという経歴からも、話す言葉が力強く明瞭で、79才というご年齢とは思えぬ軽やかな弁舌に感心するしかありませんでした。それもそのはず、ご自身の健康には相当気を付けておられる様子が、特に睡眠・食事・運動を適切に実践することで、すこぶる体調が良いことを力説されていました。西條先生いわく、糖質制限をしたら2か月で6kgやせたので、講演当日の服装は20年前のスーツを着てきたのだそうです。

閉講式では、参加者を代表して伊藤庸一さんが講師へ謝辞を述べて終了となりました。

第7回生涯研修会報告（東鍼連保険部長研修会共催）

平成29年度第7回生涯研修会は、11月26日（日）、アイーナ団体活動室3において開催されました。今回の研修会は、2月に予定していたものを前倒しで開催することになりました。それは、東鍼連保険部長会議と講習会を盛岡市で開催することになり、岩手県師会の研修会と合同開催することになったためでした。

今年度最後となる今回の生涯研修会は、通算48回目となるもので、参加者は、東鍼連保険部長4名を含め、会員24名、付添い2名、一般鍼灸マッサージ師2名

でした。

講演の1題目は、演題を「高齢社会をむかえて-フレイル（虚弱化）の予防・介護予防-」というものでした。講師は、約10年ぶりに平野医院院長・平野 繁先生をお招きしました。

お話は、「フレイルという言葉をはじめて知ることが出来るなど、現在の社会情勢を考える時、とてもタイムリーなテーマであったと思いました。近年、一人暮らしで、誰にも看取られないまま亡くなる方が増えており、この傾向がますます増加すると予想されることから、「労働寿命の延長」が「健康寿命の延長」につながり、高齢化社会を乗りきる方法であるとし、栄養低下・運動低下・社会的交流の低下がフレイルへの悪循環につながり、要介護状態へと進行し最後は死に至るということでありました。

そして、フレイルを予防するためには、生活習慣病予防のために歩くことや、適正なダイエットを行うこと、介護予防としての歩くこと、よく噛んでしっかり食べる、閉じこもらせないで社会参加する。それでもフレイル状態になった場合には、地域包括ケアと在宅医療の推進、専門職や地域住民が連携してケアシステムを創り上げることが課題になっていると説明されました。

さらに、健康長寿のための「3つの柱」として、より早期からサルコペニア（筋力低下）予防・フレイル予防として、①栄養・食・口腔機能の管理、②運動・社会活動の実践、③就労・余暇活動・ボランティアの実践などに取り組む必要性を強調されました。

年代における注意事項として、65才前はメタボ・過栄養の予防、65才以上は介護予防、75才前は生活習慣病予防（特定健診の奨励）、75才以上がフレイル・低栄養の予防対象であることにも触れていただき、今後の指針とすることが出来たと思います。

まとめとして、社会とのつながりを失うことがフレイルの最初の入口であること、「食べる」ことにこだわるのが重要である、ということでした。

午後の部は、全鍼師会保険推進委員会委員である山田敏雄先生による講演でありました。昭和22年12月20日 法律217号のあはき法制定から、現在に至る迄の保険取扱いに関する通知である、保発・保険発・保医発などの通知が数多く出されており、その経緯についての説明がありました。

次に、平成20年度から平成26年度にかけての国民医療費の年度別推移と対前年度伸び率、また、同様に柔道整復、鍼灸、マッサージの療養費の年度別推移と対前年度伸び率について資料を基に比較すると、柔整はマイナスであるのに対し、鍼灸・マッサージはプラスの伸び率が高いことがわかりました。さらに、平成17年度から平成27年度にかけての東北6県、岐阜県、全鍼師会の鍼灸、マッサージの療養費取扱高の一覧表を示しながら説明していただいたところ、東北においては、この10年間で療養費取扱高は一時的に増加傾向が見られたものの、最近では減少傾向になっている状況であり、これは、岐阜県においても、全鍼師会においても同じ状況にあることがわかりました。

そこで、なぜ医師が同意書を書かなくなっているのか、その理由を次のようなこ

とが考えられると山田先生は述べられました。

1. かかりつけ医であっても、腰痛症、頸腕症候群で診察していない。
2. 湿布薬を出しているので書けない。
3. 療養担当規則 17 条により、書けないので整形外科で書いてもらって。
4. 血圧降下剤を出しているので、書けない。
5. 公的審査会より返戻を受けたので、もう書かない。
6. 保険者からの照会が多くあり、時間がかかるのでいやだ。

このように、療養費取扱いについての情勢は厳しさが増しているばかりですが、やはり、医師に対する個人的人間関係や、礼儀を尽くすことが重要であるとのことでした。

平成 30 年 10 月 1 日をめどに始まる委任払いについての説明もありましたが、具体的な実務などや報告書類が増えることが予想されており、新しい制度についての情報収集が必要だと思いました。

保険部報告

保険部長 袖林 広正法

6 月に保険取扱高アンケートの集計をしました。内容は、他の県は減少傾向であるのに対し、当県は、横ばいからやや増でした。

7 月に東鍼連岩手大会において保険部長会議を行いました。一番の議題は部長交代の件でした。山形の伊藤先生が部長をご辞退されることに伴い、私が新部長に選出されました。

8 月に保険取扱高の集計結果を全鍼に提出しました。

11 月に東鍼連保険部長会議を岩手開催で行いました。今回はオブザーバーとして岩手県師会会長の佐々木実さんと、盛岡支部長の佐藤明さんもお迎えして執り行いました。

来年以降、秋の保険部長会議は、当分の間盛岡固定開催と決まりました。各県からの交通アクセスの良さは、やはり仙台か盛岡が一番ということで決定しました。

将来的には仙台に戻すのがよいということにもなりました。

会議の後は駅前の「うま舎（うまや）」にて懇親を深めました。

翌日の研修会は岩手県師会と協賛で行いました。

講演は、盛岡で開業医をなさっている平野繁先生の「フレイル」についてと、全日本鍼灸マッサージ師会保険局保険推進委員山田敏雄先生の「保険治療の情勢と今後の展望について」でした。

最後に佐々木実会長が講評を述べ終了となりました。

事業部活動報告

事業部長 舘下 正則

7 月 2・3 日 東鍼連岩手大会（つなぎ温泉 ホテル紫苑）

9月17日 第36回一関国際ハーフマラソン大会マッサージボランティア
 9月23・24日 東洋療法推進大会 in 京都 佐々木実会長出席

平成29年度 釜石小川地区高齢者サポートセンター鍼灸マッサージ実施内容

月日	参加者数	施術数	月日	参加者数	施術数
4/2	1	5	9/17	1	5
4/9	1	5	10/1	1	4
4/16	1	6	10/15	1	4
4/30	1	5	10/29	2	10
5/7	1	5	11/5	2	10
5/14	1	5	11/19	2	10
5/21	1	4	12/10	1	4
5/28	1	5	12/17	1	4
6/4	1	5	12/24	2	9
6/11	2	7	H30 1/14	1	4
6/25	1	5	1/21	2	8
7/2	1	5	1/28	1	3
7/9	1	4	2/4	1	5
7/16	1	3	2/11	1	4
7/23	1	5	2/18	1	4
8/6	2	8	2/25	1	5
8/20	1	6	3/4	2	9
8/27	1	5	3/11	1	4
9/3	2	10	3/25	1	4
9/10	1	6	合計 39回	のべ48名	のべ219名

老人施設等奉仕活動

月日	参加者数	施術数	月日	参加者数	施術数
5/14(一関)	11	35	10/15(奥州)	6	32
6/11(大船渡)	7	42	10/15(盛岡)	8	80
7/9(一関)	9	32	11/19(盛岡)	8	15
9/17(一関)	12	84	合計 7回	のべ61名	のべ320名

組織強化部報告

組織強化部長 佐藤 茂

東鍼連宮城県交流会 in 鳴子 報告

9月30日、10月1日の2日間に渡り、東鍼連宮城交流会 in 鳴子が開催されました。当県師会より9名参加いたしました。

先ずは、皆で古民家でラーメンの昼食をとりました。

看板も見当たらないラーメン屋でした。正に穴場的ラーメン屋で駐車場の外まで

行列を作り、順番を待っていました。TV の特集番組でよく行列のできる店を紹介されていますが、ここも文句なしに並んでも食べたいラーメン屋でした。

次に竹細工を作成、販売している竹工芸館を見学し、1 日かけてやっと 1 つ出来上がる手間のかかる作業現場を見学し、日本で最も古い学問所と言われている有備館と、その庭園を散策いたしました。紅葉にはまだ早かったですがそれでも風情あるところでした。

その後は、障害がある方も楽しめる『感覚ミュージアム』という五感をフルに使う博物館で、日常ではあまり味わうことのない空間を体験し、旅館にチェックイン。

宿から徒歩で数分のところに宮城県師会の佐藤 要 先生の建設中の治療所があり見学し、温泉につかり懇親会、二次会、三次会へと交流は盛り上がりしました。

翌日は、鳴子温泉のメタンカフェで温泉卵を作り、岩手県師会のメンバーは全員ここで帰路につき交流会は終了となりました。

去年の東鍼連岩手交流会 in 平泉では宮城県師会からも多くの参加者が集まりましたが、今回は岩手県師会からはそれを上回る参加者が集まり宮城県師会さんには恩を返すことができました。本当に参加してくださった皆様には感謝いたします。

いつもながら交流会はなかなかお会いできない東北各県の先生方とも交流ができて良い刺激になり、観光でリフレッシュもでき有意義な一時を過ごせます。来年の福島の交流会はいわき市にて開催されるようですので、そちらの方も奮ってご参加していただきますよう組織強化よりお願い申し上げます。

今回、企画運営してくださった宮城県師会の方々、ならびに、ご参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。楽しかったです、感謝します。

健康づくり委員会報告

委員長 古水 健吾

上半期の活動は、8 月 6 日の県民公開セミナーを重点に取り組むことになり、一定の成果がありました。下半期は、2 月 18 日に盛岡支部との合同勉強会を実施し、介護予防事業に関係する新しい知識と情報を学習しました。これを、新年度の県民公開セミナー2018 で生かせればと考えています。

次に、主な活動を報告します。

1. 第 20 回勉強会と打合せ会議

- ・ 8 月 6 日「鍼灸マッサージ県民公開セミナー2017」健康運動コーナー担当について打合せ
- ・ 期日：6 月 4 日（日）15 時 30 分～17 時
- ・ 場所：アイーナ 6 階・団体活動室 3
- ・ 参加者：7 名

2. 第 21 回勉強会と打合せ会議

- ・ 健康づくり委員会に名称変更報告
- ・ 8 月 6 日「鍼灸マッサージ県民公開セミナー2017」報告
委員参加 10 名、市民受講者 17 名

- ・元気はなまる筋力アップ教室参入について状況報告
 - ・期日：9月3日（日）12時30分～13時
 - 場所：盛岡視覚支援学校内
 - 参加者：8名
3. 委員会打合せ会議開催
- ・元気はなまる筋力アップ教室参入について経過報告
 - ・第22回健康づくり委員会勉強会と盛岡支部合同勉強会開催について協議
 - ・期日：11月26日（日）15時30分～17時
 - ・場所：アイーナ6階・団体活動室3
 - ・参加者：7名
4. 第22回健康づくり委員会勉強会（盛岡支部合同勉強会）開催
- ・学習内容
 - （1）低栄養とは（2）認知症について（3）口腔ケアについて
 - ・期日：2月18日（日）13時～15時
 - ・場所：アイーナ団体活動室3
 - ・参加者：6名
5. 委員会年度末会議開催
- ・H29年度活動報告とH30年度活動計画（案）について協議
 - ・期日：2月18日（日）15時30分～17時
 - ・場所：アイーナ団体活動室3
 - ・参加者：6名
6. その他
- ①貯筋運動（健康づくり・介護予防）教室とその事前勉強会は実施できなかった
 - ②委員会メンバー居住地行政に対し介護予防教室参入へのサポートは実施できなかった

第40回東北鍼灸マッサーヂ学術大会岩手大会報告

副会長・学術部長 佐藤 明

平成29年7月2日（日）、あいにく朝から雨模様の中で、7年前と同じ「盛岡つなぎ温泉ホテル紫苑」において、2日間にわたり開催された今大会は、第40回の学術大会と第70回通常代議員会の記念大会であり、東北鍼灸マッサーヂ師会連合会の大きな節目の大会となりました。大会テーマを“イーハトーブの郷から東西医療の和合を目指して！”と掲げ実施されました。地元岩手県からは会員と付き添いを含め43名の参加がありました。

午前中の会議では、今年度第1回東鍼連理事会並びに第70回通常代議員会に佐々木実会長と古舘吉弘副会長が出席し、また、東鍼連役員として、佐藤茂事務局長と私（財務局長）が出席しました。さらに、今年度からは学術担当者も集まるこ

とになり、私が兼務で出席しました。また、保険部長会議には袖林広正法部長、組織強化担当者会議には高橋悠介会員が代理出席しました。

開会式は、佐藤茂事務局長の進行により 12 時 50 分から行われ、開会のことばを私（岩手県師会副会長）が、そして、佐々木実岩手県師会会長から開催県として歓迎の言葉が述べられ、白田栄二東鍼連会長の主催者あいさつに続き、東鍼連活動に長年貢献された前東鍼連会長の梅宮光男氏、岩手県の千田節雄氏、古舘吉弘氏をはじめ、各県から推薦された 12 名の方に賞状と記念品が贈られました。

次に、地元選出の鈴木俊一衆院議員による来賓挨拶や岩手県知事、盛岡市長のメッセージなどの紹介があり、会場に集まった東鍼連会員と北海道鍼灸柔整マッサージ師会会員、新潟県鍼灸マッサージ師会会員を含む 105 名の参加者から盛大な拍手が送られました。

引き続き記念講演に移り、演題を「施行 70 年、今『あはき法』を考える―法第 12 条を活かす流れを！」として、東鍼連会長、宮城県師会会長の山田幹夫先生が講演されました。

臨床研究発表では、進行役座長を私が務め、今年のテーマは、「脳疾患に対する鍼灸マッサージ療法」でした。各県代表 6 名の発表があり、地元岩手県師会代表は、菊地彩香先生による「脳梗塞による右片麻痺患者の施術目標をいかに立てるか」でした。

終了後、東鍼連会長より各県代表 6 名に感謝状と記念品の贈呈が行われました。

次は、学術講演で、「漢方相談薬局の取り組みと脳血管疾患等…漢方薬について」と題し、講師にはラジオ番組でも有名な、和漢屋薬局経営者の白澤順先生をお招きしお話しいただきました。予想通りその内容においても貴重な知識や情報が満載で、聞くものを引き込む魅力にあふれていました。

今回の講演は、一般公開講座で市民の関心も高く、多くの方々が聴講に訪れていました。

特別講演では、5 月に新しく就任されたばかりの全日本鍼灸マッサージ師会会長伊藤久夫先生の「鍼灸マッサージ業界の最新情勢について」でした。新会長の人柄や考え方、今後の方針などのほか、19 条関連の裁判の問題についても触れられるなど、今後のかじ取りに大きな期待を感じさせてくれました。

夜の部の懇親会は、進行役に古舘吉弘副会長と菊池彩香さんが当たりました。まず、階猛衆院議員、阿部盛重県会議員に来賓挨拶をいただき、伊藤久夫会長、北海道、新潟県の 5 名を交えた 87 名の盛大な宴会となりました。料理は岩手の山海のさち満載。

アトラクションでは、地元ではおなじみの「中川あい子社中」による民謡ショーが催され、外山節、南部よしやれ等アンコール曲を含め 6 曲を披露していただきました。また、各県のカラオケ自慢も登場。

最後に景品抽選が行われ、当たった品物を昨年亡くなった山形県師会の鈴木耕平さんの仏前にという声が続出。

中締めは、伊藤庸一岩手県師会相談役の音頭により、三三七拍子を唱和してお開きとなりました。

二次会は、ホテル内のスナックを貸切りにして 32 名の方々が結集し、歌と会話を通して大いに「飲みにケーション」。その後、各自部屋に戻り、寝床分科会の声があちらこちらから漏れていたようでした。

学術大会二日目は、もう一つのメインイベントとなる太極拳でした。講師には、日本武術太極拳連盟の岡村勝子先生です。これも一般公開講座で、複数の一般参加者がありました。

松下優子広報部長の進行で行われ、主に実技が行われました。先生の動作やポーズを見ながら動くのですが、視力のない方には介助者がサポートすることでスムーズに行われ、予想以上の覚えの速さに先生も驚いていました。

岩手県師会では、6 月の生涯研修会でリハーサルをしたお陰もあり、先生と岩手の会員は全体的な要領を把握し円滑に進められた様子で、特に、ステージ上で音楽に合わせた集団演武はとても素晴らしい出来栄となり、太極拳を取り入れて本当に良かったと感じました。

いよいよ大会も大詰めとなり、代議員会報告、保険担当者会議報告、組織強化担当者会議報告が行われ、最後に、来年の宮城大会について、山田幹夫会長から、開催期日は平成 30 年 7 月 1 日～2 日（日・月）、会場は、ホテル仙台サンプラザとなると報告され大会は閉幕しました。

大会終了後、岩手県の佐々木会長から宮城県の山田会長へ、岩手大会の佐藤茂事務局長と私（財務局長）から、宮城大会事務局長と財務局長へ引継ぎが行われました。

東鍼連岩手大会に参加して

盛岡支部 清水 寛平

私にとってはこの東北鍼灸マッサージ学術大会は初めての参加となりました。開催 7 月の第 1 日曜日は自転車の競技大会で審判をしなければならず、不参加の予定でしたが、今年は日曜の昼からの開催だったので参加できることになりました。

まず最初の記念講演が「施行 70 年、今『あはき法を考える一法第 12 条を活かす流れに！』でした。あはき業も医業一部である。戦後の GHQ による医師以外は業としてはならないということから、反対運動が起こり、業として行うことが認められたなど、知らないことがたくさんありました。私は東洋鍼灸専門学校の出身ですが、確かに学校の先生方は「君たちは鍼医になるんです。そういう意識で勉強しなさい。」と言われました。

今このことを大々的に提唱することが良いか悪いかはわかりませんが、あはき業を医業と意識して行うことにつくづくと考えさせられました。

続いて臨床発表、テーマは「脳疾患に対する鍼灸マッサージ治療」。各県の先生方の患者さん、治療に対する真っ直ぐなものを感じました。自分はあまり使わない電気治療や徒手療法の効果と可能性、片麻痺患者の施術目標を施術者と患者さんと家族でどのように立て、進めていくのかなど勉強させていただきました。発表時間 10 分は短く、もう少し時間を長くしてもらいたかったです。

初日の一般公開講座は漢方薬の講座はラジオなどで知られる和漢屋薬局の白澤順

先生。私の家から比較的近く、何度か母親に漢方薬処方していただいたことがありました。穏やかな人柄なのかゆっくりやわらかな印象の先生です。脳血管疾患の予防、疾患後の後遺症に対する処方、薬の副作用、漢方薬の副作用など漢方の奥深さを教えていただきました。マイペースで進めすぎたのか、後半は時間が足りなくなりペースアップするハプニングがありましたが楽しかったです。

特別講座は全日本鍼灸マッサージ師会会長伊藤久夫先生の業界の最新情報のお話でした。メインは保険治療で委任払いになるという話でした。私がいま見ている患者さんで保険を使う方はいませんが、これからまた保険治療をすることがあるかもしれないので新しい情報を常に流してほしいと思いました。

2 日目は太極拳を一般公開講座で行いました。講師の岡村勝子先生は姿勢も良く、ゆっくり丁寧に動きや型の説明をされました。身体が温かくなってきて自分の運動不足を実感しました。

最後に、東鍼連大会に参加してたくさんのプログラムがあるなか準備、運営に携わった役員、実行委員会の皆様に感謝申し上げます。役員でもなかった私は、あっという間に終わってしまった感がありますが、運営に携わった先生方は長い 2 日間だったかもしれません。

本当にありがとうございました。

東鍼連に参加して

奥州支部 中村 龍哉

7 月 2 日、3 日に行われた東北鍼灸マッサージ学術大会に宿泊も兼ねて参加するのは初めてのことで、期待と緊張を持ちつつ二日間を過ごしました。今回岩手での開催ということで、微力ながら受付の係を受け持たせていただき、多少は会に貢献できたと思います。

一日目のプログラムでは各県の代表の先生方の臨床発表は非常に為になるお話でした。また、漢方薬の話を興味深く聞かせていただきました。山田幹夫宮城県師会会長、伊藤久夫全鍼師会会長のお話ではこれからの鍼灸マッサージに対して考えさせられる、とても有意義な時間で一日目はあっという間に過ぎてしまいました。その後の懇親会では様々な先生方と交流することができ、とても楽しい夜でした。

二日目では、前日のお酒も残りつつ、初めての太極拳を見よう見まねで不器用ながらもすることができ、貴重な体験でした。ただ一つ気になったのは、目の見えない方には参加が難しく、参加者が少なかったのが残念に思いました。それでもこの二日間は私にとって新たな刺激を受けるいい機会でしたので、次回の大会にも是非参加したいと思いましたし、もっともっと沢山の方の技術・知識の向上、会の発展に添える様、自分自身も頑張ろうと思いました。

鍼灸マッサージ県民公開セミナー2017 報告

学術部長 佐藤 明

平成 29 年度第 3 回生涯研修会を兼ねたこのイベントは、猛暑日に近い 33.6℃の気温となった 8 月 6 日（日）、アイーナ 4 階県民プラザ A.B.C において開催されました。参加者は会員 29 名、付添 2 名でした。

公開セミナーは、マッサージコーナー、はりコーナー、新しくきゅうコーナー、健康運動コーナーの 4 つのコーナーに、のべ 133 名の県民が来場し、東洋療法の治療効果を体験されました。また、無免許対策の各種ポスター等も昨年以上に多く掲示したほか、当会の活動紹介コーナーには写真や東鍼連岩手大会のポスターも張り出しました。

そして、来場者には大きな茶封筒に「ご来場ありがとうございます」の文字とイベントの名称や主催及び後援団体を記載し、裏面には会場の見取り図も印刷しました。また当会の名称とともに QR コードも記載した事で、スマホで直接当会のホームページが開けるようにしました。この封筒の中には、全鍼師会の無免許対策チラシ、当会が作った「安心治療のお知らせ」と「加盟会員治療院一覧表」を入れました。更に今年は、封筒に受付番号を記入しておいたことで、実質の来場者数が 75 名ということがすぐわかりましたし、その番号を各コーナーごとの受付表に記入していただいたので、のべ人数の集計も簡単にできました。

さて、当日役員やお手伝いできる方々には早く来ていただき、道具や機材の搬入、封筒への袋詰め作業などの準備をしました。10 時前には参加会員が集合し、全員ビブスと名札に免許保有証を着用し準備態勢を整えました。11 時前には会場設営も完了し、ミーティングを行いました。今年は、同じ 4 階のアイーナスタジオが控室となったことで、移動がスムーズに出来ました。

役割分担と責任者を明確化したため、能率的な運営が出来、最も時間のかかる会場設営も見取り図を配布したことで、思ったより短時間で設営を終えることが出来ました。

また、昨年の反省を踏まえ、総合受付とコーナーごとの受付を別に設置し、それぞれ専属の担当者を置くことで来場者の流れが円滑になりました。さらに、昨年より簡易ベッドを増設し（8 台）、バスタオルや脱衣かごも新しく加えました。

今年もマッサージコーナーは、順番待ちをする人がいるなど盛況で、昨年より 4 人多い 60 人、はりコーナーは 31 人の体験がありました。「一灸」や「電熱灸」を使ってのお灸コーナーも人気があり、25 人が体験されました。健康運動コーナーでは、17 人が訪れ経絡テストとストレッチ、貯筋運動を体験され、ほぼマンツーマンの指導が出来ました。

開始直後からしばらくは少なかった来場者も、お昼前後から込み合い始め全部で 4 つのコーナーに女性 93 人、男性 40 人が来場されました。住所による分類は、91 人が盛岡市、滝沢市が 14 人、紫波町が 9 人、矢巾町が 5 人、その他県内が 6 人、県外が 8 人という内訳でした。アイーナに来館されて立ち寄った人が多く、受付アンケート結果を見ると、その割合が 90%以上でした。友人知人、治療院の紹介、マッサージ等指導教室、新聞情報による紹介は 8 人でした。その結果から来年の課題が見えてくるように思います。

会員は施術しながら、鍼灸マッサージの効果や未病に役立つこと、健康体操の重

要性を語っていました。また、無免許施術による健康被害に注意していただくよう、お一人お一人にやさしく語りかけていました。

交代で昼食を摂りながら 2 時半まで施術し、終了後の撤収もスムーズに行き閉会式となりました。閉会式では各担当部署の責任者をはじめ会員からの感想や意見を述べあいました。最後に会長から、「2 回目となる県民公開セミナーを通し、県民に鍼灸マッサージの効能啓発と、無免許業者への注意喚起という 2 つの目的が達成された。暑い中、本当にご苦労様でした」との言葉があり終了となりました。

学術部の反省として、鍼灸マッサージ未体験の人を呼び込むため、「何だろう、鍼灸マッサージ？ 思ったより、いいもんだね！」というキャッチフレーズを掲げたのですが、初めてという人が少なく、インパクト不足だったように感じています。

盛岡タイムスには、8 月 3 日と 6 日に広告を掲載してもらい、8 日には記事として掲載してもらえたことは良かったと思います。それから、後援団体を 8 団体に増やしマスコミへ情報発信をしたのですが残念ながら他にマスコミからの取材はありませんでした。最後になりましたが、カナケンさんとセイリンさんから多大なご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

県民セミナーに参加して

盛岡支部 松下 優子

8 月 6 日第 2 回目の公開県民セミナーが行われました。前日までは、真夏にしては幾分涼しい日が続いていましたが、当日は雲一つない晴天となりました。

約 30 名の参加スタッフで、最初に会場準備を行いました。私は初めての参加だったので、段取りが分らず、皆様のご指示の下動きました。まず、県民プラザのテーブルや椅子を撤去し、パーテーションで壁を作り、長テーブル、ベッド等を並べました。

さて、いよいよ本番です。私の担当は健康づくりでした。出足はあまりよくなかったのですが、先にお弁当を食べようと思っていたところに数人の市民の方が来場しました。張り切って対応しましたといたいところですが、私はしばらく健康づくりの指導の練習をしていなかったもので、自信がありませんでした。しかしやってみたらなんとかなるもので、お客さまにも喜んでもらい、来年も参加したいと言ってもらいました。続けて何組かの指導（一緒に経絡ストレッチや貯筋運動を行う）をすることは、結構体力を消耗しました。しかも、冷房の働きを阻止するかのようになり、天窓から真夏の太陽がさんさんと降り注いでいるのでした。皆さん汗だくで施術していました。

この様にセミナーは進みました。最後の方に駆け込みでマッサージを体験されていた方もいました。あわただしく終了となりましたが、少し反省してみました。

全体的には 2 度目ということで、準備から後片付けまでとてもテキパキとしていました。来場者の割り振りも受付担当者が大きな声でコールし、案内していたのでスムーズに流れていました。さて、私はどうかというと、経絡ストレッチを本来、1 回につき 30 秒伸ばすところを、時間短縮のために 10 秒で打ち切ったり、片側だ

けをやったりしました。また、貯筋運動にしても同様です。したがって、感動的な反応がないこともありました。やはり、きちんとストレッチすることで良い結果が得られると思いました。

第3回目にはより多くの会員が参加し、より多くの市民に施術し、有資格者と無資格者の違いをアピールできたと思っています。

宮城県交流会 in 鳴子 報告

遠野支部 佐々木 忠久

昨年、平泉から鳴子へのバトンタッチの元、去る9月30日、10月1日の両日お隣宮城県の鳴子温泉において東鍼連宮城交流会が開催されました。途中、通り雨に傘を差すこともありましたが、まずまずのお天気にも恵まれ我が岩手からは9名の参加者でした。

地元宮城県を始め他県からの参加者20名、計29名が有備館駅に集結。なにはさておき昼食ということで、地元では行列のできるお店と評判の古民家風ラーメン屋に足を伸ばすと、なるほどといえる行列。我々も後方に並び40分ほど待つことやっとお店の特製ラーメンにありつけました。

確かに行列ができるのもうなずけなくもない味でした。特製のチャーシューの大きさに度肝を抜かれました。しかし、正直言って細麺が好きな私は古里の海鮮麺に、こっそり一票でしょうか？他県の皆さんには内緒にしてね！（笑）行列ができるという言葉に私を始め皆さん心躍るものを感じるのでしょうか。

空腹を満たすと竹工芸館見学。ここでは一日かけて一個の作品を完成するのが精一杯という職人ならではの手作りの竹細工に職人魂を見た気がします。参加者の中には昔懐かしいお台所の定番の「ざる」を買い求めていた方もおるようでしたね。

次に向かったのが有備館。ここは江戸時代の日本にあった教育施設で仙台藩の学問所でした。茅葺きの書院造の建物が現存し、日本最古の学問所建築であるとされ、現在では国の史跡・名勝とされているそうです。残念ながら庭園の散策は雨の中の散策となってしまいました。今度は紅葉の季節に足を運んでみたいものですね。

この日の最終目的地は感覚ミュージアム。私ども視覚障害者にとってはまさに視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚といった人間の五感をテーマにしたミュージアムで、五感をフル活用し楽しむことができました。また見える人も、ダイアログゾーンを体験した、リモノログゾーンを体験でき、視覚的にも十二分に楽しむことができました。

程なく今宵の宿泊先にチェックイン。宿に着くと、宮城県師会の佐藤 要先生の建設中の治療所を見学し、一風呂浴びたところで懇親会となりました。

懇親会ではサプライズが用意されており、地元を中心に活躍されているご夫婦のディオ（タカ&マリ）によるミニコンサートが堪能できました。その歌声はカーペンターズのボーカルのカレンさんを彷彿するようで良かったです。その後、会員による隠し芸も飛び出すなど宴たけなわながらも終焉。そのまま二次会でのカラオケ。さらには客室に戻り夜の更けるのも忘れ三次会。

翌日はあれほど飲んで食べたにもかかわらず皆朝食をペロリ。その足で鳴子温泉のメタンカフェ・温泉卵作りとカフェでの tea time を満喫。温泉地ではなければならぬ空気を胸一杯に吸い込んで、岩手からの参加者はここでおのこの帰路へ。

私は昨年から参加させて頂いて思うことは、まだ参加されていない会員の皆さんにも、東鍼連交流会の持つ意味を参加されることにより、きっとご理解頂き明日からのお仕事への refresh へと繋がるものと思います。

最後にこの企画を盛り上げて頂きました宮城県師会の皆様に感謝申し上げ今回の報告と致します。来年は福島県。今回参加されなかった皆さんも一緒にいかがですか？

一関国際ハーフマラソン大会報告

一関支部長 館下 正則

第 36 回一関国際ハーフマラソン大会は、9 月 17 日開催されました。台風 18 号が近付く中、全国から、また、ハワイからも合わせて 3,600 名の選手が健脚を競いました。

そんな中、私たち一関支部会員 10 名、県師会から大澤睦子さんと東京から天木裕次郎さんの協力によって、84 名の選手をマッサージボランティアすることができました。

私たちは第 2 回からこのボランティアを続けており、一関市からも感謝状をいただくなど、広く活動が認められております。今後ともマッサージの啓発活動の一つとして続けて行きたいと考えています。

協力してくださった皆さん、ありがとうございました。

東洋療法推進大会 in 京都参加報告

会長 佐々木 実

大会テーマ「先端医療と伝統医療の融合～未来への期待」の下、第 16 回東洋療法推進大会 in 京都は、「リーガホテル京都」で 10 月 24 日、25 日に行われました。参加者は 550 名。

私は大会実行委員の一人でもあったため、前日の 23 日に京都入り。24 日の朝 9 時から打ち合わせ。また、視覚障害委員会分科会講師の京都駅までの送り迎えなどあって、全イベントに参加することは出来ませんでした。出席出来た範囲で報告させていただきます。

24 日は 12 時から開会式。伊藤久夫新会長は、「医療技術の革新は目覚ましい。が、先端医療だけでは解決出来ない課題もある。それには伝統医学が必要だ。両者が融合してより良い療法となる。東洋療法推進大会は全鍼の大きな行事の一つだ。これからも続けて行きたい」と挨拶。

続いて伊吹文明氏をはじめ京都市長など来賓の挨拶。

特別講演では、「iPS 細胞による網膜再生とロービジョンケア」と題して理化学

研究所網膜再生医療研究開発プロジェクト仲泊聡（なかどまり さとし）先生の講演がありました。

先生は、iPS 細胞による網膜再生研究のこれまでを話されました。最新医療の進歩の早さには驚かされます。そして、私たち視覚障害者にとっては大いに期待したい分野のお話でした。

特別講演の後はそれぞれの委員会主催の分科会です。

- ・ 保険推進委員会（1）「不正請求対策について」（2）「あはき療養費の中長期展望を考える」
- ・ 京都府師会「京都府鍼灸マッサージ師会の活動紹介」
- ・ 無資格対策委員会「どうなる。あはきの広告規制～その意義と意味について」
- ・ 学術委員会「臨床発表」
- ・ 地域健康づくり委員会「総合事業の実際～事業にかかわるために」
- ・ スポーツ事業委員会「2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて」
- ・ 災害対策委員会「熊本地震災害医療派遣の報告」
- ・ 視覚障害委員会「視覚障害あはき師の現状と未来」
- ・ AcuPOPJ「国民のための鍼灸医療推進機構の活動報告」

私は保険委員会の分科会二つと視覚障害局の分科会に参加しました。

保険委員会の分科会では、来年度から本格化する療養費委任払いに関する新情報、不正請求取り締まりの厚労省対策などが往田局長や委員の方々から説明されました。

この委員会の一人、山田敏雄先生による療養費取扱いと不正請求対策についての話を、岩手県師会では 11 月 26 日に予定しています。

25 日に出席した視覚障害局の分科会では、理教連栗原会長による「視覚障害者とあはき業の現状と未来」という話でした。

先生は豊富な資料を提示され、あはき業の未来を分析されていました。たとえば、個人経営者の平均年齢は晴眼者で 52.3 歳、視覚障害者で 60.3 歳。1 日の患者数は、晴眼者で 5.0 名、視覚障害者で 3.0 名。年収は、晴眼者で 400 万円、視覚障害者で 180 万円等々。

私が参加した分科会は録音を取ってきましたので聞きたいという方は連絡下さい。

大会は二日間とも好天に恵まれ、日中の気温が 27 度を超える暑さ。「京都はまだ夏だなあ」と思いながら帰って来ました。盛岡で新幹線を下りたら、「うおーっ！さむっ！」

来年の東洋療法推進大会は、10 月 14 日、15 日、鹿児島市で行われるそうです。

各支部活動報告

二戸支部

広報部 古舘 吉弘

平成 30 年になり、2 か月が過ぎようとしております。29 年度の事業などももう少しで終わりとなります。年明けは雪も少ないのですが、寒さは昨年よりも厳しいようです。

さて、世の中いろんなことがありますすぎて何を書いていいかわかりませんが、とにかく平和な世の中であってほしいです。

ここからは、29年度の二戸支部について報告します。

4月15日に定時総会を開催しました。出席者も6人と小人数でしたが事業報告、決算報告、事業計画、予算について了承をいただきその後、自由に意見を交わしたりしました。

その他、県の研修会、特に今年は東鍼連岩手大会に2名が参加しました。それから、今年度も老人ホームの奉仕は都合により中止となりました。

また、一昨年まで会員でもありました山本孝一さんの奥様の光子さんが長年病氣療養していましたが、9月9日に亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

そのほかに姉帯三春さんは退会され現在会員は5名となりました。今後何かやりたくても、少数で中々難しくなりました。少ない会員ではありますが頑張っって支部を維持できればと思っております。

二戸管内でも、無資格で整体などを行っているところもあったり、本当に大変な時代になりました。また、人口減少が進んでいるため、患者さんが減っています。若い人も少なくなったり交通が不便になったりで、大変な時代になったなと感じています。何とか負けずにやっていきたいと思ひます。

最後に、30年度も二戸支部を宜しくお願いします。

盛岡支部

支部長 佐藤 明

皆さまこんにちは。今年の冬は例年より寒さが厳しく、盛岡では2月14日に約40cmの大雪が積もるなど、全国的にも記録的な大雪となっており、被害に遭われた地域や人々にお見舞いを申し上げます。

さて、支部独自の活動としては、マッサージボランティアを2回実施し、会員参加数のべ16名で95名に施術しました。

また、盛岡市からの委託事業である、健康つくりマッサージ等指導教室は3年目となり年間86回行いました。11月には利用者にアンケートを行ったところ、その回答の中には、一年間続けている方が多く、健康維持や体の痛みの改善、日常動作にも効果を実感し、教室の開催回数を増やしてほしいなどの要望が多く寄せられました。

次に、昨年からはまった支部情報メールを18回配信しながら、生涯研修会の参加者募集や行事等のお知らせなど行いました。そして、東鍼連岩手大会や県民公開セミナー、定期総会や生涯研修会にも多くの会員が参加するなど県師会事業へ協力することができました。

それから、支部の勉強会は1回実施しました。これは介護予防事業に関する内容として、県師会健康つくり委員会と合同の勉強会でした。

会員動向として、新入会者は中渡智彦さん、前川せい子さん、藤沼敦子さん、伊藤奏音さん、袖林正美さん、村上レイ子さんの6名が入会されました。皆様、どう

ぞ宜しくお願い致します。

退会者は7月に川口美登里さん、3月に桐生誠さんの2名が退会されました。
その結果、3月末時点で62名の会員が所属しています。

続いて、活動日誌の報告です。

4月9日 支部定例総会開催。29名出席。

5月7日 県師会総会に22名出席。懇親会に17名出席。

6月4日 第1回生涯研修会に会員17名と付添1名が参加。

7月2日・3日 東鍼連岩手大会に会員22名と付添1名が参加。

8月6日 鍼灸マッサージ県民公開セミナー2017に会員18名と付添1名参加。

9月3日 第4回生涯研修会（健康保持のための研修会）に会員24名と付添1名が参加。

9月17日 一関国際ハーフマラソン大会に大澤睦子会員が参加。

9月30日～10月1日 東鍼連宮城交流会に会員3名と付添1名参加。

10月15日 矢巾町健康福祉まつりのマッサージ無料体験コーナーに会員8名が参加し80名施術。

11月19日 西厨川老人福祉センターのマッサージボランティアに会員8名が参加し15名施術。

11月26日 第7回生涯研修会に会員20名と付添1名が参加。

12月9日 忘年会開催。会員17名と家族1名参加。

2月18日 支部勉強会に会員10名出席。

その他に、4回の役員会議と健康づくりマッサージ等指導教室指導員のミーティングを4回開催しました。

最後に、会員同士のチームワークで盛岡支部のさらなる向上と発展ができるよう、これからも活動を進めて行きたいと思います。

奥州支部

支部長 千田 節雄

超一級の暑さ寒さに見舞われた今年度であり、体調を崩された方がいつもより多い1年でした。

奥州支部の主な行事

4月9日 定期総会

10月15日 水沢区ボランティアフェスティバルにおいて、視福協合同でマッサージ治療を実施。

1月21日 視福協合同で新年祝賀会実施。

その他、役員会議を年3回実施した。（8月20日、12月23日、3月4日）

11月5日に及川清隆さんが厚生労働大臣表彰を受賞し、1月9日には顧問の小澤信男さんに金ヶ崎町町政功労が授与されました。おめでたいことが続いていますが、一方、奥州支部で一番若かった高橋悠介さんが3月で退会となり、先々を期待していましたので非常に残念に思います。再入会をお待ちしております。

一関支部

支部長 舘下 正則

寒さが厳しく雪の多い年初めとなりましたが、春は意外に早くやって来そうですね。今年はどんな年になるのでしょうか。

平成 29 年度の会員動向は、4 月に岩手県鍼灸師会前会長の阿部義博さんが入会されました。現在 11 名で活動しております。

活動報告

4 月 9 日 定期総会（福祉センター）8 名出席

5 月 14 日 第 1 回慰問治療（関生園、福光園、ケアサポート）11 名で 35 名施術

7 月 9 日 第 2 回慰問治療（関生園、福光園、ケアサポート）9 名で 32 名施術

9 月 17 日 第 36 回一関国際ハーフマラソンマッサージボランティア 12 名で 84 名施術

その他、県師会の事業、東鍼連、生涯研修会へ参加を呼びかけ、遠路ではありますが、積極的に参加しております。

遠野支部

支部長 佐々木きみ子

遠野支部は、なんといっても小川地区のマッサージボランティアです。

それから、交通の便は悪いのですが、研修会や東鍼連、交流会へ積極的に参加しています。

大船渡支部

支部長 古水 健吾

4 月 2 日 支部総会

5 月 7 日 県師会総会に 2 名参加（盛岡）

6 月 11 日 マッサージ奉仕活動 富岡荘と祥風苑

8 月 6 日 県民公開セミナーに参加（アイーナ）

30 年 1 月 14 日 新年会

29 年度の活動も例年通りの活動でした。ただ 6 月のボランティアから 1 月の新年会までの間があきすぎたので、秋ごろにでも何かできなかったかなあと感じました。（例えば奉仕活動、支部研修会等）

平成 30 年度も少数精鋭で活動して行きたいと思っています。

また県師会行事にも参加したいと考えていますが、盛岡への交通の利便性が悪く、それがネックになっています。

第 40 回東北鍼灸マッサーヂ学術大会岩手大会 臨床研究発表抄録（平成 29 年 7 月 2 日）

タイトル 脳梗塞による右片麻痺患者の施術目標をいかに立てるか

【所属団体】 岩手県鍼灸マッサーヂ師会

【演 者】 菊池 彩香

【目的】

往療する際、ご本人が望んでいることを把握することができず、ルーティンのように施術をこなす日々であった。ご本人が望んでいることをいかに把握し、施術の目標を立てるか、試行錯誤したことを発表する。

症例の概要：85 才女性。5 年前に脳梗塞を発症し、後遺症として右片麻痺があり、言葉も出にくい。介護サービスは受けておらず、夫婦 2 人で暮らしている。不自由ながらも家事全般をこなしている。室内はつかまりながら歩いているが、玄関から先に 1 人で出ることはできず、2 か月に 1 回の通院以外で外に出ることはない。

【方法】

往療の際、施術とは別に時間を取り、発症から今日まで、また今後のことについてご本人の気持ちや考えを聞き取った。

【結果・考察】

初めは、本人の希望や困っている事を聞いても「特にない」と仰っていた。しかし、発症してからの経過と、その時どう思ったかなど本人の心情に寄り添って聞くことで、寝たきりになってしまわないか不安がある事、庭に出て花を見たいと思っていた事を話して下さった。

【結語】

相手の気持ちを受け止める度量がまだ自分には無く、言葉を濁して済ませてきたことが多々ある。高齢者に対して今後のことを聞くことは、死を意識させてしまうのではないかと思い、聞くことを避けてきた。今回、このような発表の場を与えて下さったことにより、思い切って聞くことができた。今回のことを教訓にして話を聞くスキルについて磨いていきたい。

プロフィール

菊池彩香

千葉県出身。東洋鍼灸専門学校卒業後、都内の鍼灸院に勤める。

昨年 1 月に夫の故郷である花巻市に移り住む。

自宅に「はり灸あん摩マッサーヂ指圧 暖(のん)」を開設し施術を行う傍ら、地域のお店とコラボレーションし、お灸教室を開いて鍼灸の普及および資格に関する啓発活動を行っている。

編集後記

広報部長 松下 優子

あまりにも早く時が過ぎて行くので、私はいつもおきざりにされそうになります。早くおとずれた春も少々後退気味です。

さておかげさまでこの会報も、記念すべき 50 号となりました。今はパソコンを使い、素人でもなんとか編集作業を行うことができるようになりました。とても素晴らしいことです。さぞ先輩たちはご苦労されたことでしょう。

今回も原稿を寄せてくださった方、編集、仕上げなどをお手伝いくださった方、たくさんの方に支えていただきながら完成することができました。ありがとうございました。

奥付

一般社団法人	岩手県鍼灸マッサージ師会
平成 29 年度	会報「東洋療法いわて」第 50 号
	平成 30 年 5 月 1 日発行
発行人	会長 佐々木 実
	〒028-7401 八幡平市西根寺田第 13 地割 108 番地
	電話 0195-77-2057
編集責任	広報部長 松下 優子
	〒020-0667 滝沢市鵜飼向新田 7 番地-227
	電話 019-687-2405
事務所（事務局）	会長 佐々木 実
	〒028-7401 八幡平市西根寺田第 13 地割 108 番地
	電話 0195-77-2057
ホームページ	http://iwateken-harikyumasikai.jimdo.com/
郵便振替	岩手県鍼灸マッサージ師会 02360-9-19833
印刷所	有限会社 浜印刷
	〒020-0667 滝沢市鵜飼洞畑 56-29
電話	019-684-3569

カナケン 広告